

2009年アメリカフェス開催決定！

ゲート一部開放7月4日(土)予定

沖縄では「嘉手納カーニバル」は知っているけど「アメリカフェスト」は知らないという方が多いと思います。実はこれ同じイベントなんです。嘉手納基地のオープンハウスつまり基地のゲートを一部開放して行われる地元の人々との交流行事の名称が1993年から変わったのです。「嘉手納カーニバル」の頃は嘉手納基地中央に位置する体育館施設付近で出店などで賑わっていたのですが、93年から飛行場北側に会場を移して行われるようになりました。

さて、本年7月4日（土曜日）、嘉手納基地ゲートの一部を開放して「アメリカフェス AmericaFest 2009」が開催されることになりました。地元の皆様と嘉手納基地で勤務、居住する米国人らとの親睦を深め、日米相互の理解を促進することを目的に開かれます。当日は指定されたゲートから観光バス、レンタカー、一般車両の乗り入れが可能です。どのゲートを開くか、開始時間などの詳細は6月にお知らせする予定です。乞うご期待。



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



(米空軍チャッド・ウォーレン上等兵撮影)



(米空軍レイ・ラモン一等軍曹撮影)



(米空軍チャッド・ウォーレン上等兵撮影)



(米空軍レイ・ラモン一等軍曹撮影)



(米空軍チャッド・ウォーレン上等兵撮影)



(米空軍レイ・ラモン一等軍曹撮影)



(米空軍レイ・ラモン一等軍曹撮影)

4TH of JULY

AMERICAFEST! '09



AMERICAFEST 2009
2009 JUL 4 SAT

AMERICAFEST 2009



(米空軍チャッド・ウォーレン上等兵撮影)



(米空軍チャッド・ウォーレン上等兵撮影)

AMERICAFEST!



イースター（復活祭）

第18航空団広報局

E・A・S・T・E・R
EASTER
EGG HUNT!



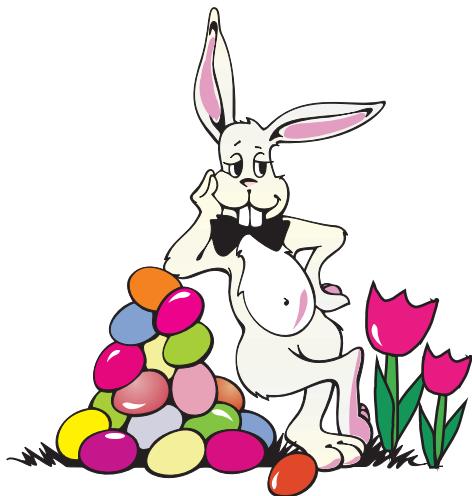
春と言えば欧米の祝日ではイースター（復活祭）が有名です。イースターはキリスト教の祝日で、十字架にかけられて死んだイエス・キリストが三日後によりみがえった事を記念するお祝いです。春分後の最初の満月の次の日曜日に祝われるため、毎年日付が変わります。ちなみに今年は4月12日となっています。日曜日に固定されている理由はキリストが日曜日によりみがえったからとされています。

イースターに欠かせないのが卵（イースター・エッグ）と兎（イースター・バニー）です。卵は生命誕生を象徴し、ヒナが殻を破って出てくるのをイエスの復活と結びつけため使われたと考えられています。また、兎は、多産で繁栄の象徴とされている事から使われたと考えられます。

イースター・エッグは、カラフルな紙や布でゆで卵を飾ったり、食品着色料で絵や模様を描いたりと色鮮やかなのが特徴です。子供のいる家庭では庭に卵を隠して子供たちに探させるエッグ・ハントしたりします。最近ではゆで卵に変わり、卵を模ったプラスチック容器にジェリー・ビーンズ等のお菓子を入れたものや、卵やウサギの形のチョコレートを使ったりしています。

ホワイト・ハウスでは、敷地を一般開放し「イースターエッグ・ロール」が毎年恒例の行事となっています。このイベントでは、エッグ・ロール以外にも本の読み聞かせや子供向けのショー等、様々な催しが行われます。参加するには国立公園局が配布するチケットが必要です。今年のエッグ・ロールはイースター翌日の4月13日（月）に開催予定のようです。

嘉手納基地でも、毎年一部の部隊が子供たちのためにイースター・エッグ・ハントのイベントを企画しています。公園で行われるイベントでは子供向けの遊具やゲームが用意される楽しいイベントとなっています。また、福利厚生施設では、イースター・バスケット作りや水中エッグ・ハント、イースター・バニー衣装の貸し出し等、イースターにちなんだ企画が満載です。



ICHARIBA-CHO-DEI

日米スポーツ・文化交流会

第18航空団広報局



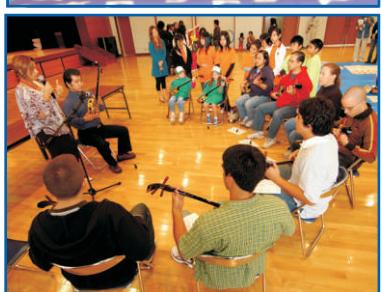
(このページの写真全て、米空軍レイ・ラモン等軍曹撮影)

走った！描いた！美味しかった！

2009年3月7日、嘉手納町口ータリー広場とロータリープラザの両会場で日米スポーツ・文化交流イベントが開催された。前日まで降り続いた雨も回復し、「いちゃりばちょーでー」をスローガンに、およそ200名の日米の家族連れが会場に集合した。広場では障害物競走、ドッジボール、玉入れが行われ、屋内ではサンシン教室、風船遊び、国旗アート、料理教室が開かれた。スポーツ文化の交流を通して、嘉手納町民と米軍人等との相互理解を深めることを目的に、沖縄防衛局が主催したイベントだ。

日本人にはごく当たり前のことも米国人にとっては珍しいことがたくさんある。例えば、米国人にとって玉入れは珍しく、英語表記も素直にTamaireとした。障害物競技は嘉手納町の子ども達は慣れているせいか断然早く、米国人参加者らは跳び箱やピンポンボール運びなど苦戦しながらもnew gamesに一生懸命取り組んでいた。終わってみれば皆でハイタッチ！これこそ当に「いちゃりばちょーでー」体験だ。

屋内会場へ入ると、サンシン教室には定員以上の米国人参加希望があり、沖縄独特の楽器に関心の高いことが伺えた。子ども達は手のひらに絵の具をぬり、米国国旗のストライプの部分を埋めていた。なかなかのできだ。いつのまにか日米の子ども達が腹ばいになって思い思いの言葉や絵を国旗の余白に描いている。言葉は通じなくても遊びの世界が広がっているようだ。最後にのぞいたのはクッキングクラス。ご婦人方およそ50名がなにやらワイワイしている、と同時に美味しいそなにあいが廊下に広がっていた。6台の調理場には英語と日本語が飛び交いながら、エプロンや頭巾に身を包んだ日米の婦人方があれやこれやと言いながらお好み焼きや焼きそばを調理していた。自分でも作れるように一生懸命メモしていた米国婦人もみかけた。家族に美味しいものを食べさせてあげたい気持ちは万国共通です。今夜もどこかで「What would you like for dinner, Pizza or Okonomi-yaki?」なんて会話が交わされているかもしれない。



BILATERAL FRIENDSHIP DAY